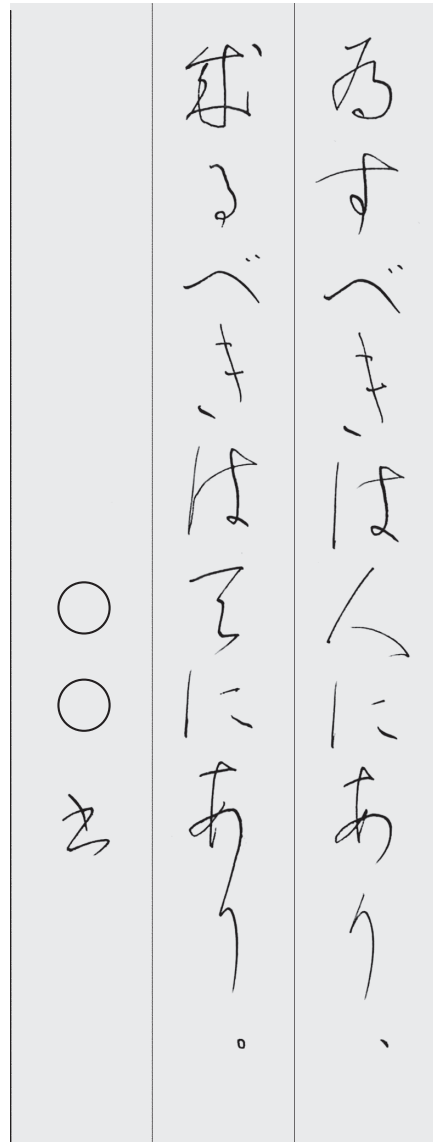


憲照先生の手本ア・ラ・カルト
(à la carte) (27)

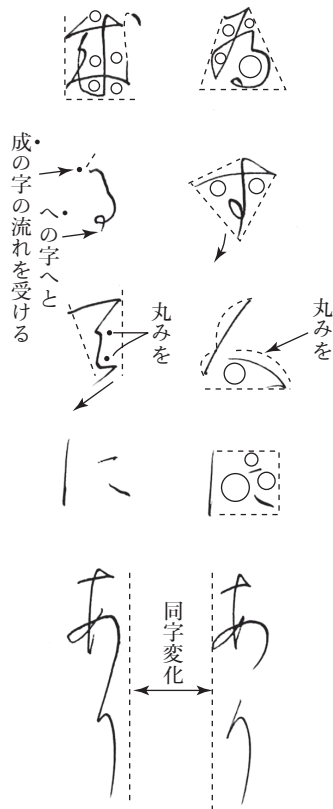
締切り 三月二十三日 (必着)

昭和48年5月



つけペン・墨汁使用

〔解説〕



◎本会は、今年で創立六十八周年を迎えます。まだまだ世の中には、新型コロナウイルス禍の影響で、世界中が不安の中にいます。

しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎今年の短期特別課題は、昨年同様『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。

お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。同一課題を楷・行・草の順で繰り返し、掲載していく予定です。

◎多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★為すべきは…(書体＝草書)

杉田玄白(一七三三～一八一七)

江戸時代の蘭学医

努力は、人がしないといけない事柄です。でも結果は、人の及ばないところ、すなわち天が決めます。そして結果は天が形成します。

ですから、結果を出そうと努力して、できる限りのことをした後なら結果を天に託して、後は待つしかないのです。

〔作品の出し方〕

▼今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。

▼用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。

▼出品制限の対象とはなりません。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。

※不明な点は無記入でも結構です。

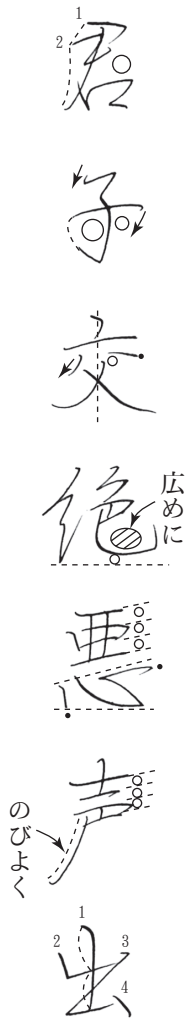
▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様にお願いします。

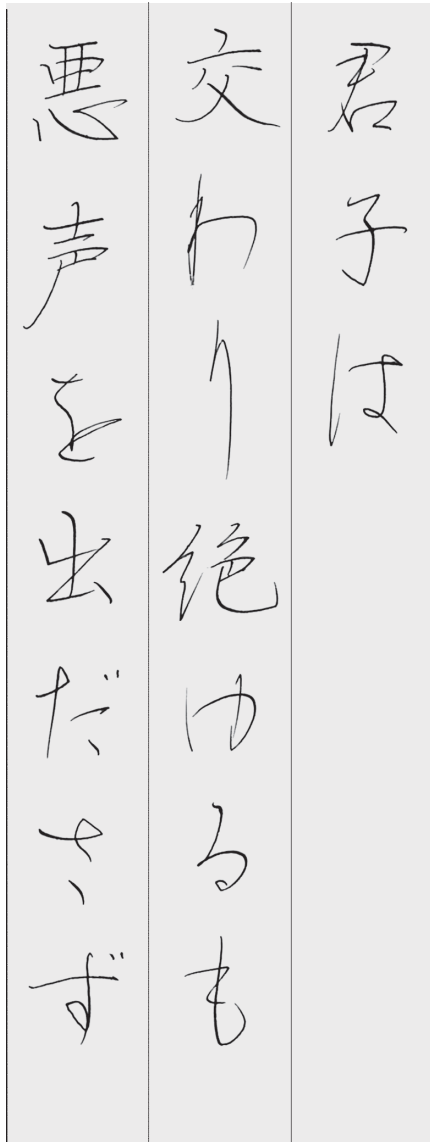
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

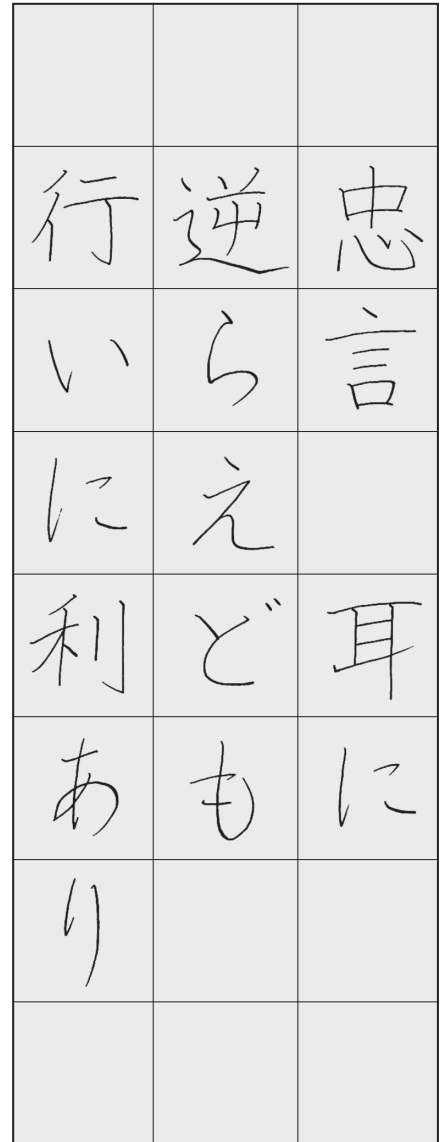
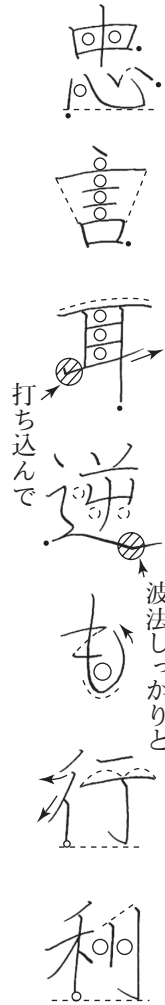


新井龍峰書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



古田瑞苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★忠言：(書体＝楷書)

孔子(前五五―前四七九)

中国春秋時代の儒教の祖

「良薬口に苦けれど病に利あり。」

忠言耳に逆らえども行いに利あり」

日常会話にもよく使われているあまりにも有名なことばである。

たしかに人の真の忠告は耳に痛く、

時には心につきささるようになさえ思え、

素直に聞けないものであるが、そ

う言葉こそ、必ず得るものがある。ま

た、そういう忠告をしてくれる人を多

くもちたいものだ。

◆4月課題予告(行書)

他人の欠点は

良い教師である

西洋のことわざ

★君子：(書体＝行書)

司馬遷『史記』より

君子は、人と絶交したり疎遠にな

たりしても、決してその人の悪口をい

わないという意。

今日においても、その場にはいない人

の悪口を言っているのを耳にすること

があるが、誠に聞き苦しいものであ

り、悪口を言った人こそが、回りの人

から敬遠されることになるであろう。

◆4月課題予告(楷書)

子供は五歳までに

その一生涯に学ぶ

すべてを学び終える

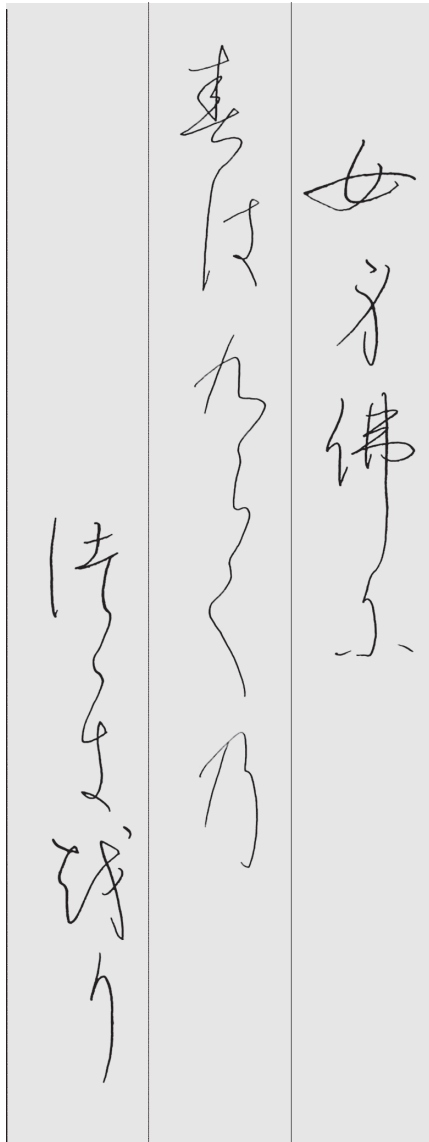
▼教範・書範＝行草または草書

▼師範＝行書

準初段から六段まで

新入から1級まで

女身ニ仏ハに春ハ剥ラ落ルのつづきキをリ

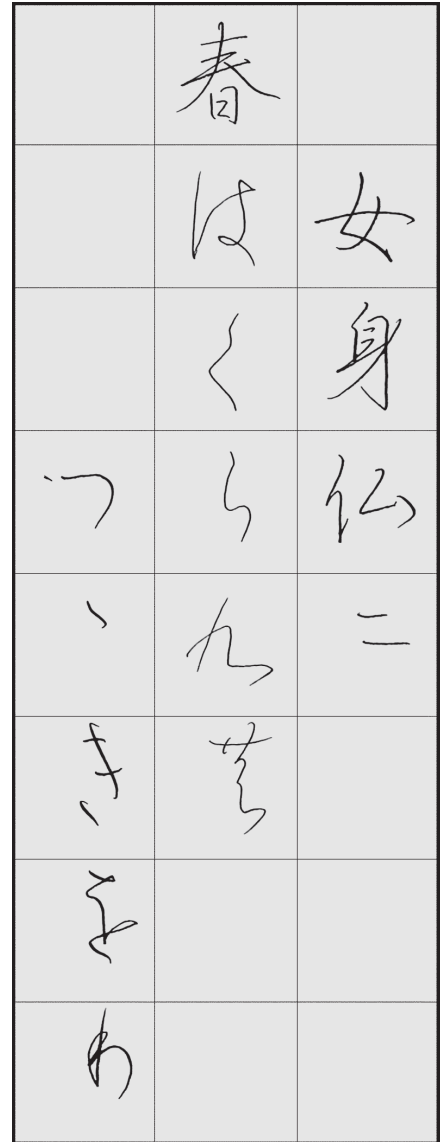


田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

女身ニ仏ハに春ハ剥ラ落ルのつづきキをリ



田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

女身にょしんぶつ仏はくらくに春剥落のつづきをり

(細見綾子)

【句解】女身にょしんぶつ仏ぎげいてん(伎芸天)の前にたらずむと、黒い乾漆かんしつが剥落して地肌じはだの赤土色が出ている。春が今めぐってきて、その時の流れの中に、女身仏の剥落は続いているのである。

【鑑賞】奈良秋篠寺へ行った時の作。この句の発案は「伎芸天に…」で、時の流れの中の伎芸天の剥落の美が中心であった。「女身仏に…」と上五を入れかえることで、伎芸天の中に女身を見つめ、そこに作者が一体になった氣息が感じられる。時の流れの中の女身の美のありようを感じさせる句。

〔古筆参考〕

農の 女 女 女 女
乃の 乃 乃 乃 乃
徒つ 徒 徒 徒 徒
支き 支 支 支 支
利り 利 利 利 利

【解説】偏に縦線を書き、旁に横線を書いた時へ「ニ」横線を少し上目に書くとバランスが良い。

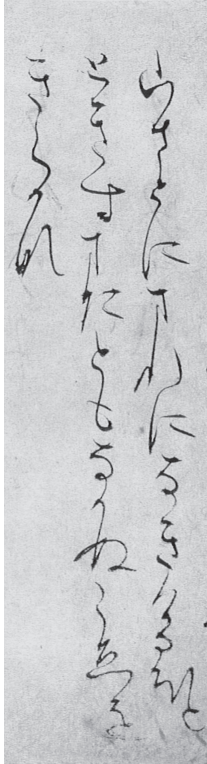
◆4月課題予告

紺緋こんぱい春月重く出でしかな

(飯田龍太)

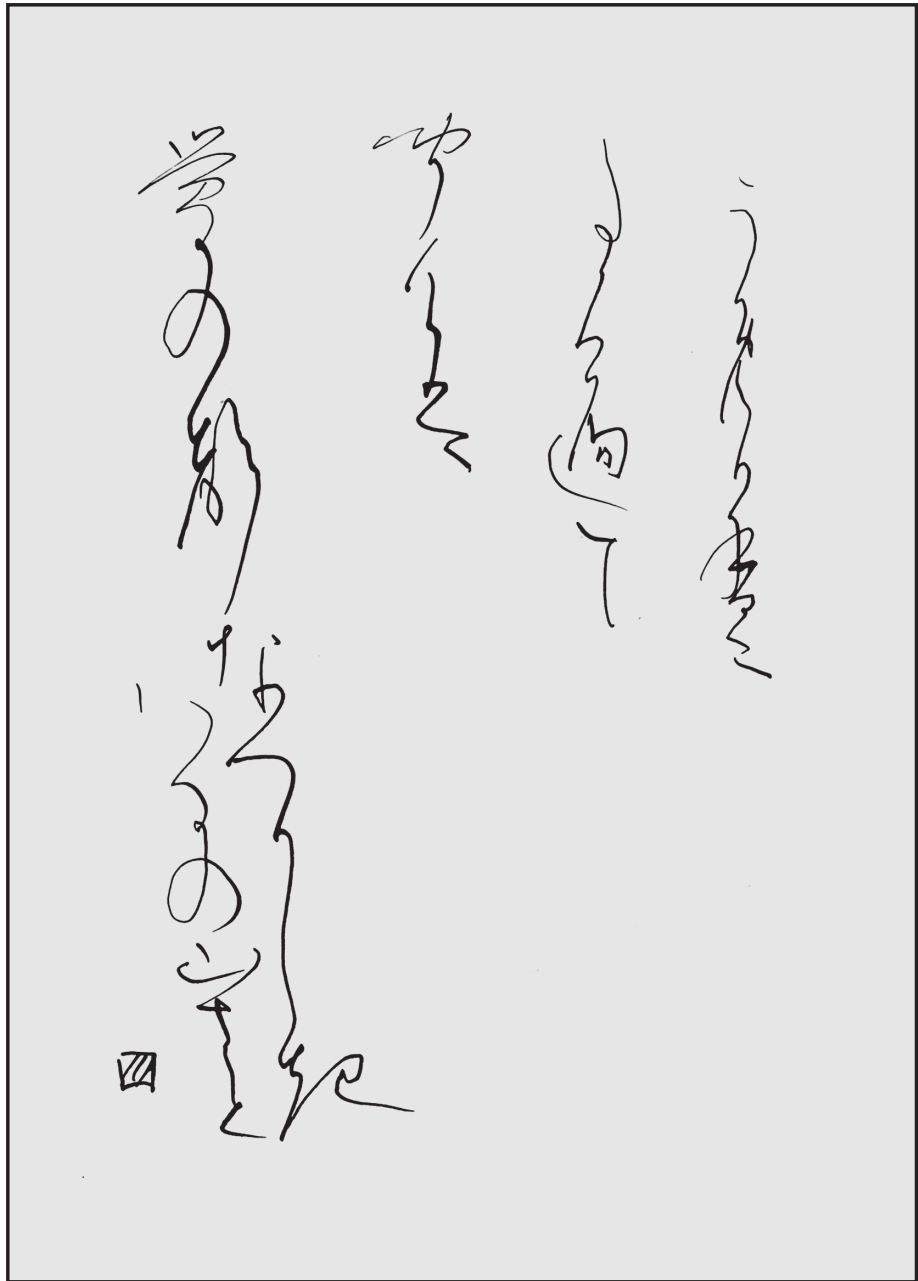
〔古筆参考〕

なかつかさしゅう
中務集



山万ぎとにまれ奈にな介き本けるほと
とき万すまた奈とも可な可かぬ可こゑを
きく可かな那

締切り 三月二十三日 (必着)



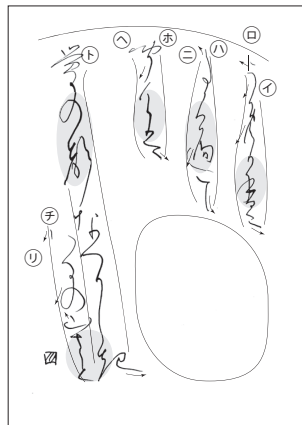
築やな 瀬せ 舟しゅう 香こう 書

梅うが免香可に多たぐ通へて聞介け盤ばうぐ鶯ひすの
声ハな可つか起しき 春ハの山可里きと

〔歌意〕 匂ってくる梅の香に添えて聞えてくる鶯の声がまことに慕わしく思われる春の山里だよ。

〔出典〕 新潮日本古典集成

〔解説〕



①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、①と⑦、①と⑧、①と⑨、①と⑩、②と③、②と④、②と⑤、②と⑥、②と⑦、②と⑧、②と⑨、②と⑩、③と④、③と⑤、③と⑥、③と⑦、③と⑧、③と⑨、③と⑩、④と⑤、④と⑥、④と⑦、④と⑧、④と⑨、④と⑩、⑤と⑥、⑤と⑦、⑤と⑧、⑤と⑨、⑤と⑩、⑥と⑦、⑥と⑧、⑥と⑨、⑥と⑩、⑦と⑧、⑦と⑨、⑦と⑩、⑧と⑨、⑧と⑩、⑨と⑩、それぞれ呼応。

- 余白大切。
- 密の動き大切。
- ◁ 指向性大切。

◆ 4月課題予告

草しげる道かりあけて山里は
花見し人の心をぞ知る

締切り 3月23日(必着)

春眠暁を覚えず、とはよく言った
もので、つつい朝寝坊をして
しまいがちな心地よい気候となり
ました。いよいよ来月は書道展が
開催されますね。今から楽しみに
しています。無理せず頑張ってください！

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

春眠暁を覚えず、とはよく言った
もので、つつい朝寝坊をして
しまいがちな心地よい気候となり
ました。いよいよ来月は書道展が
開催されますね。今から楽しみに
しています。無理せず頑張ってください！

横 書 き 課 題

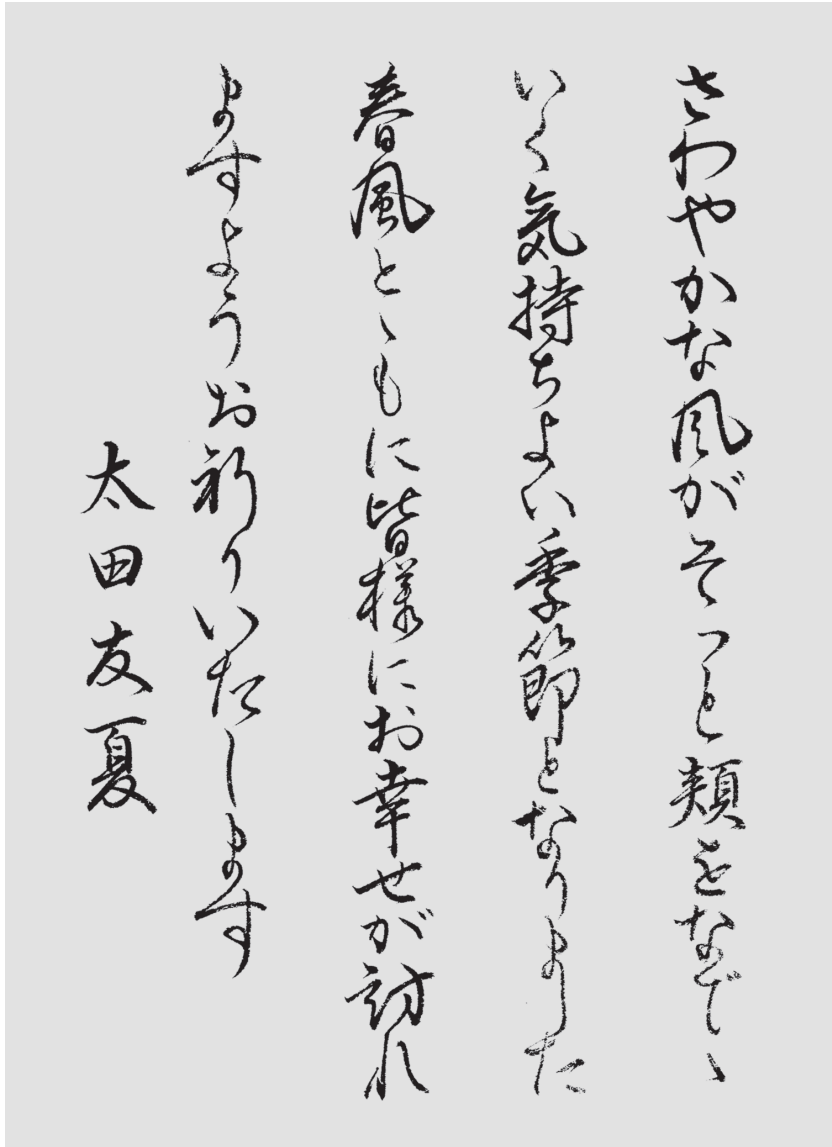
春を感じさせる紋白蝶も、幼虫は
青虫と称され野菜の害虫である。

広島県庄原市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

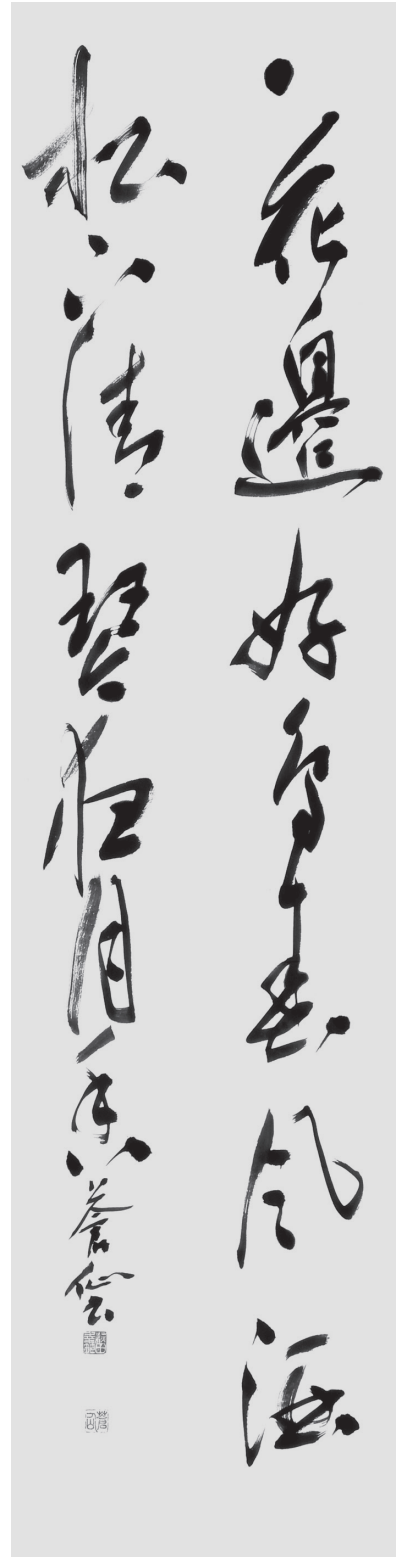
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

伊藤梅香 書



締切り 三月二十三日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻田蒼仙 書

花邊好鳥春風酒

松下清琴夜月香

孫獅

- [条幅・細字作品の出し方]
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績 (天位〜5等) は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

・印で墨つきしました。
(ご自分の氏名)

さわやかな風がそつと頬をなで、
いく気持ちよい季節となりました
春風と、もに皆様にお幸せが訪れ
ますようお祈りいたします

〔条幅解説〕
画の間を等間隔に書く：整正美、これは実用書、教育書です。変化を求める芸術作品の中で疎と密も重要な要素です。この拙い作品から広狭、即ち疎密を留意して書いて下さい。

〔大意〕花の下、春風に鳥が鳴けば酒に酔うのによく、松の木かけに弾ずる塵外の琴は夜月までにおう。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

新入から1級まで(楷書)



澤 幸 寿 書

春來りて物色鮮やかなり

〔大意〕春を迎えたとあらゆる物が鮮やかによみがえってくる。

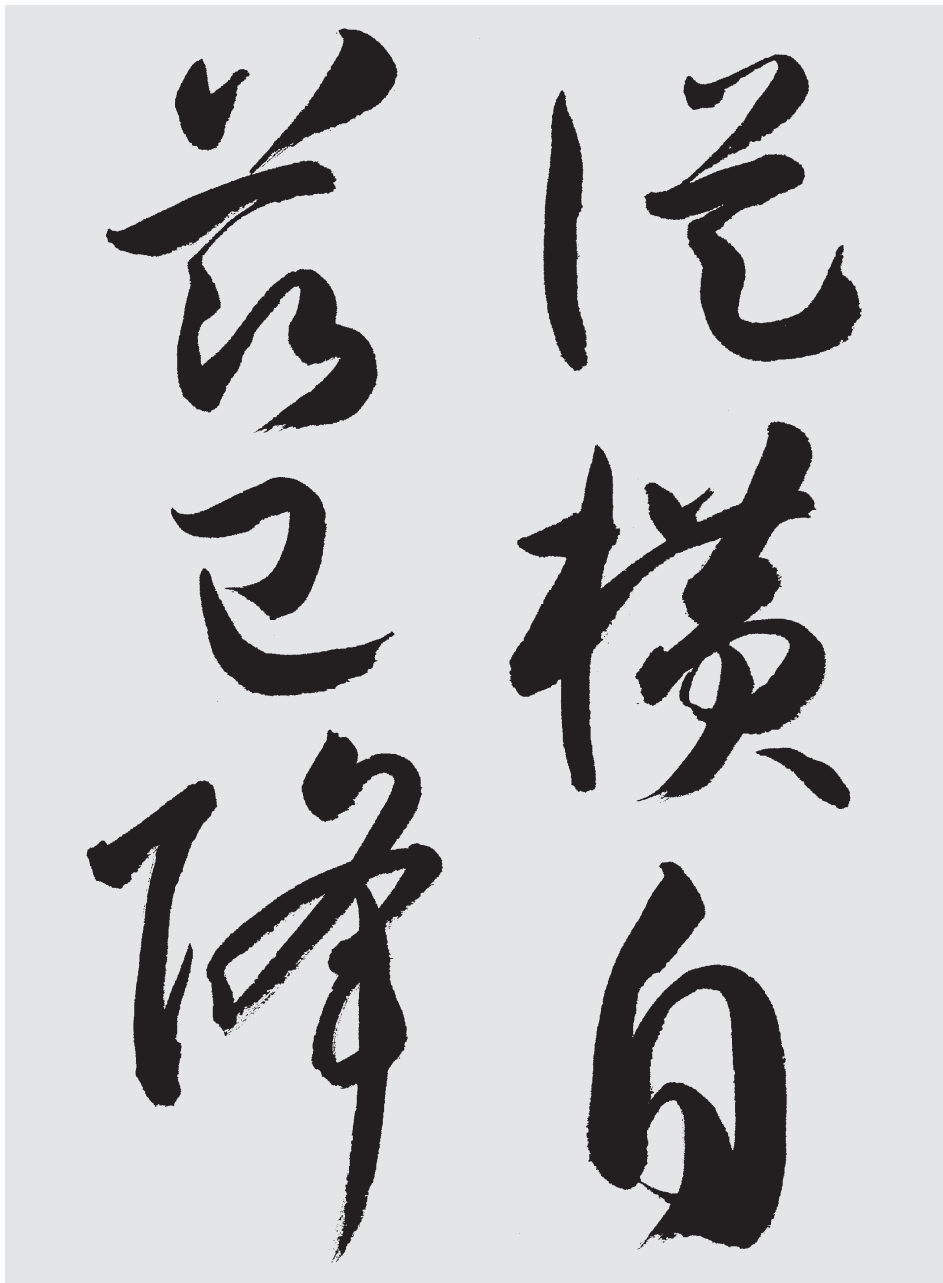
〔解説〕



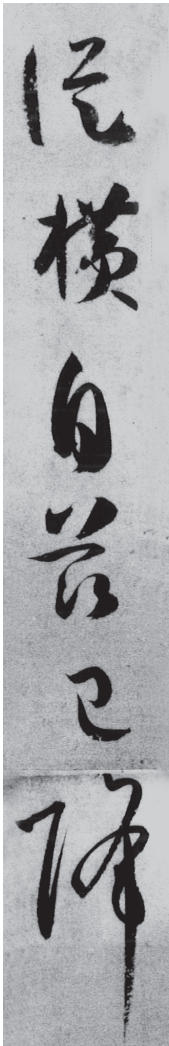
◆4月課題予告(行書)



準初段から師範まで



須田 一葉 臨



從
横
自
茲
已
降

〔出典〕 書譜（六八七）

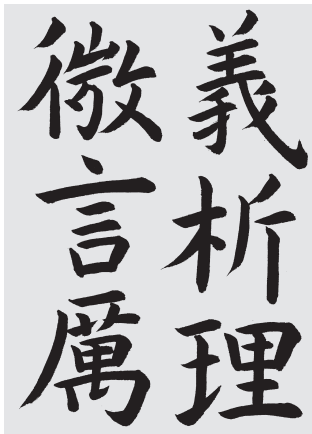
〔筆者〕 孫過庭（六四八？～七〇三？）

〔読み〕 從横たり。茲れ自り已降、

〔解説〕

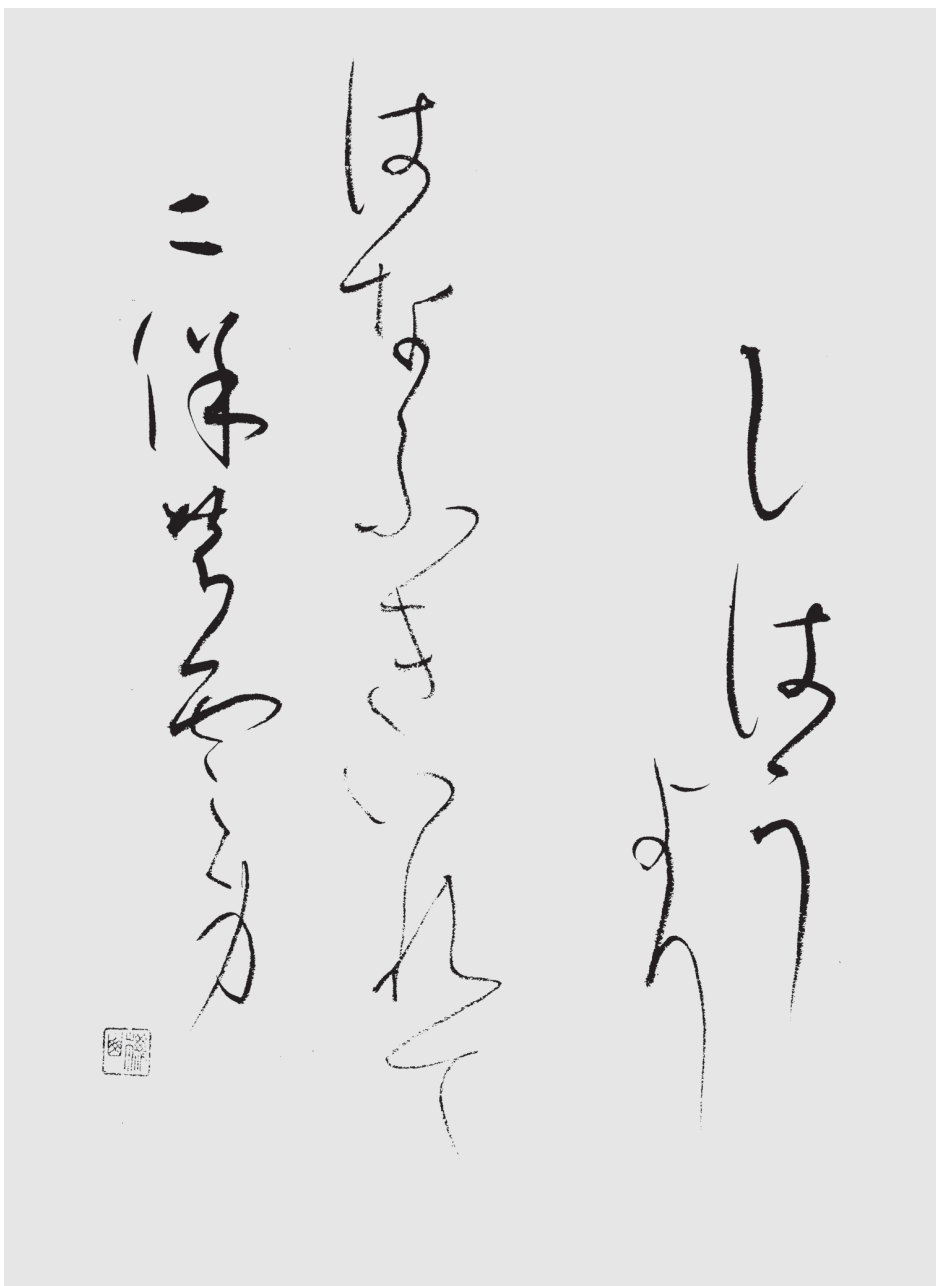


◆4月課題予告
※文献によって字体が異なる場合があります。



新入から1級まで

浅井機山先生書



四方より花吹入て二保農雲身の海

松尾芭蕉

〔句意〕

浜田珍夕(酒堂)亭にまねかれた折の句。「白馬」には句の前に「洒落堂記」を出す。鳩の海は琵琶湖のこと。湖上落花の大観をよんだもの。珍夕への挨拶の句。

◆4月課題予告

てのひらに落花とまらぬ月夜かな

〔解説〕

まず全体を見ると、上5は、3字1行と、2字を添えています。

中7は、墨量をそのまま上から下までかすれるまで書いて、4字連綿と3字連綿で、一番長い行。

下5は、墨継ぎして力強く、単体、単体、3字連綿です。

それでは、1行1行見ていきましょう。

「しはつ」

「し」、下からしっかり毛先を突いて(蔵鋒)、そのパネがある状態で一気に下へ引きます。強靱な線が引けます。パネがかかる時の強さで太くも細くも書けます。この感覚を手に覚え込ませるのです。

「より」

前行「う」の縦画と、「り」の縦画は同じ書き方ですが、前が太ければこちらは細く書く。変化です。

同じような線が横並びになった時は、必ず変化させます。太ければ細く、速ければ遅く、という具合です。

「はなふきいれて」

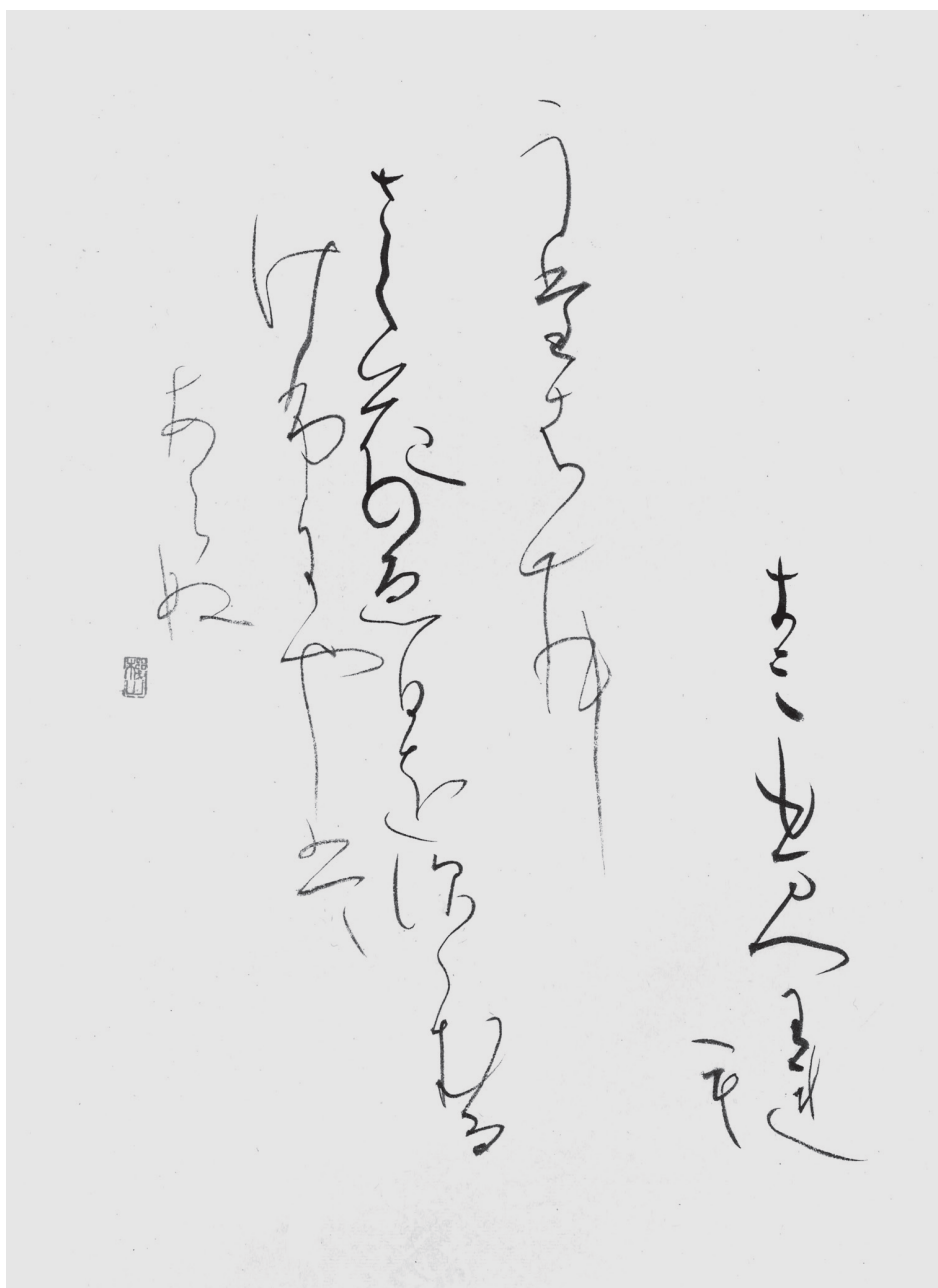
連綿線の長さや方向をよく捉えましょう。長い連綿線では、「はな」「ふき」「れて」。短い連綿線では、「な」「ふ」「いれ」。

「二保農雲身」

ここで墨継ぎし、変体仮名が続きます。力強く書き進め、やがて「雲」の途中から細く柔らかに書き終えます。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



君も舞へ我も歌はむ咲く花の

酔ひを勧むる今日にやはあらぬ

清水浜臣

〔歌意〕

君もおどれ、自分も歌おう。咲いている桜が、酔いをさらに誘っている春の今日ではないか。

◆4月課題予告

つくづくし手にもちながらねたる子の

夢は春野になほあそぶらむ

〔解説〕

まず全体をみてみると、3行目に、墨継ぎした長い行があり、その右左に同じくらいの長さの行があります。

右端の行は墨量がたっぷりで力強く、左端の行は墨量がなくなって細く軽やかです。

さて、1行ずつ見ていきましょう。

〔支三も万へ王連〕

〔毛〕

「支」、紙の上半分ほど開けて書き出し、縦長の狭い字が続きます。「へ」は左右に大きく広げ、「王連」と縦長の狭い字になり、終画で横広で安定させますが、更に「毛」を添え書きして1行をかちっと安定させます。

〔う堂者舞〕

一番上まで持っていく、「う」の点を軽やかに打ちます。この時点で心が軽やかな動きをもって1行を書いていきます。「堂」で少し速度を落とし、「者」で少し動きを出し、「舞」は次第に軽やかに大きく連筆し、終画は一気に速度を増します。

〔わく花の糸目を須、むる〕

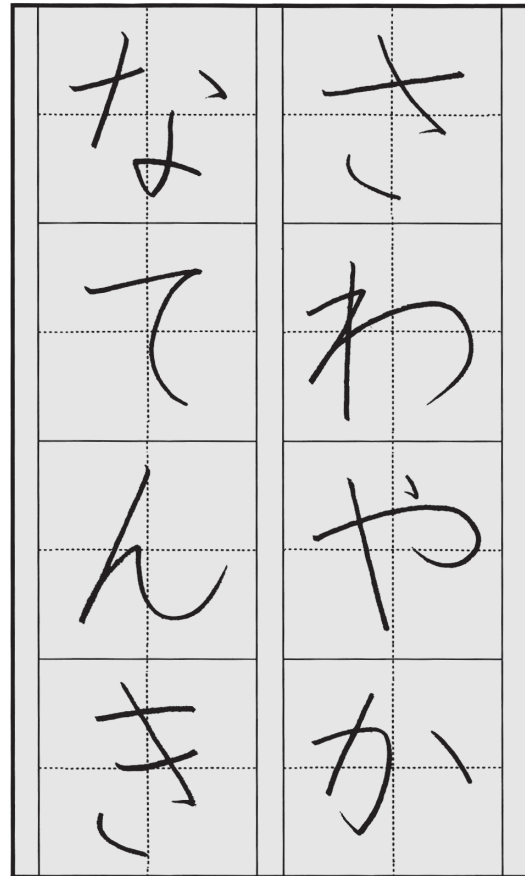
墨継ぎし、〈太細の変化〉をつけながら、重厚に、軽快に、そして最後「る」は小さいながらしっかり1行をしめます。

〔け布爾や盤〕

〔あらぬ〕

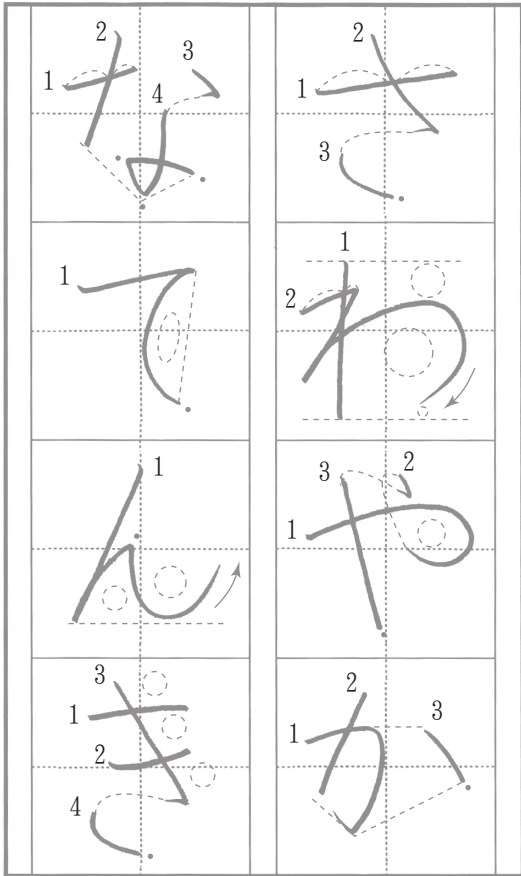
「う堂」の行を意識して右行に寄せ書き、最後は「ぬ」で書きおさめます。

よ
う
年



★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかき)

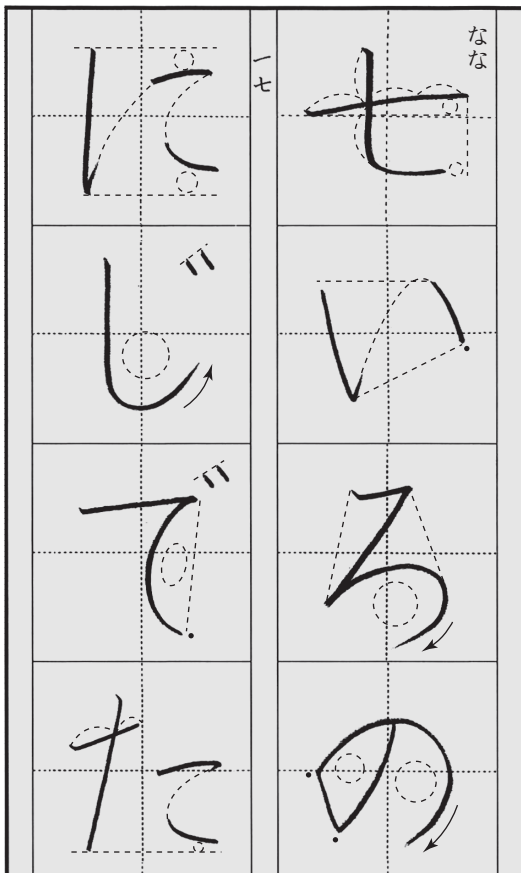
小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準
初
段
以
上

新
入
〜
1
級



幼
年
〜
小
三
年
ま
で
三
宅
容
玉
書

小二年

ン	の	火
字	教	曜
を	室	は
学	で	近
ぶ	ぺ	く

準初段以上

小三年

真	思	家
に	い	族
の	出	旅
こ	を	行
す	写	の

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

ン	教
字	室
学	で
ぶ	ぺ

新入〜1級

い	旅
出	行
写	の
真	思

新入〜1級

〈用具〉自由(黒色に限る)

に	美
周	し
井	い
は	声

新入1級

動	に	美
し	周	し
泣	井	い
い	は	歌
た	感	声

小四年

準初段以上

小四年以上

岡嶋桂川書

得	姉
意	編
	物
	絵

解説(よく見て習いましょう)

の	や	姉
が	絵	は
得	を	編
意	か	み
だ	く	物

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

用具自由(黒色に限る)

一画 運 運 運 運	ウン	一画 快 快 快 快	カイ
二画 賃 賃 賃 賃	チン	一画 速 速 速 速	ソク
二画 値 値 値 値	ね	二画 電 電 電 電	デン
一ト上	あ(がり)	一画 車 車 車 車	シャ

解説(よく見て習いましょう)

が	運	快
り	賃	速
す	が	電
る	値	車
よ	上	の

小六年

(全員)

偉	乗	彼
業	り	は
を	越	困
達	え	難
成	て	を

中二・三年

(行書)

部	気	窓
屋	し	を
の	な	開
掃	が	け
除	ら	換

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題 かん の しゅん こう 神 野 春 紅 書

し	か	お	教	お
ま	ざ	ひ	わ	母
す	り	な	り	さ
	つ	様	な	ん
	け	の	が	に
	を		ら	

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 3月23日 (必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 なる せ ゆう か 成 瀬 有 華 書

春	の	緑	山	暖
の	ぞ	が	の	か
芽	か	顔	雪	な
生	せ	を	も	日
え	る		解	差
			け	し
				に

◎お手本はつけペン使用

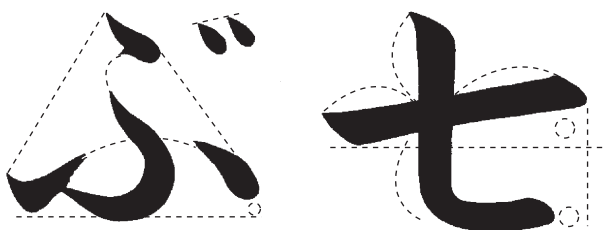
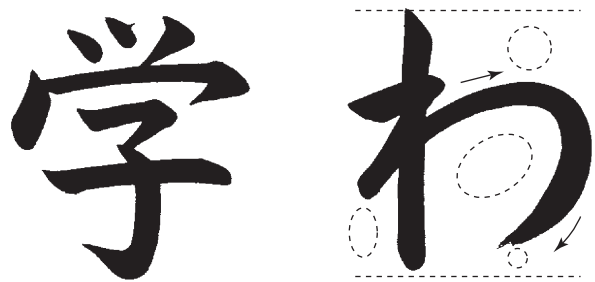
◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年〜小二年
酒井智仔書



小五

得絵
意が

出思
い

小三

声

思

絵

出

意

美

小四

い美
声し

小三〜小五年

水野碧友書

中二
 達成 偉業を

小六
 電 快
 車 速

小六〜中二・三年
 玉樹小華書

屋 快
 達 速
 成 部

中一
 掃 部
 除 屋
 の